教育研究社会連携推進室 Letter　令和 4 年 3 月 8 日発行

-地域と大学を結ぶ- りえぞん No. 11

編集発行：武庫川女子大学　教育研究社会連携推進室

充実する本学の地域連携活動

コロナ禍においても、オンライン等を利用し様々な活動が実施された。[対象期間：2021.9～2022.3]

【　教育学科　】

尼崎市の子ども食堂のクリスマス会に学生が参加

尼崎市の子ども食堂「モコモコ倶楽部」で 12 月 16 日に、クリスマス会を行った。

「モコモコ倶楽部」では2018年度から教育学科 吉井ゼミが、尼崎市の支援を受けて福祉の面から子どもの居場所づくりの活動に主体的に取組んでいる。

また、今年度から 4 年間「子ども食堂の交流拠点機能研究：漢字・食育融合教材の開発と実践による教育効果の評価」という研究課題で科学研究費助成事業が採択され、日本語日本文学科、教育学科、食物栄養学科が、子ども食堂での子どもと大学生との交流を通じ、食生活向上と漢字学習の機会となる取り組みを実施。

今回は 3 学科 22 人の学生が参加し、漢字や食に関するゲームをしたり、自分でデザインした缶バッジを作ったりして、楽しいひと時を過ごした。

大学 HP より

【　健康・スポーツ科学科　】

甲子園を中心に地元の情報を取材、SNS で発信

穐原ゼミが、甲子園地区のオススメのお店やスポーツアクティビティなどの情報を取材し、インスタグラム「甲子園スタイル」など SNS で週 3 回発信。

この企画は「スポーツを核とした甲子園エリア活性化推進協議会」（西宮市・阪神電気鉄道株式会社・三井不動産株式会社・武庫川女子大学等）が、年間を通じてスポーツやアウトドアを楽しめる環境や、スポーツ関連ビジネスの創出に官民が連携して取り組む活動の一環。

学生は、昨年 11 月からの SNS での情報発信に参加し、西宮市内の気になるエリアの取材にも出かけ、精力的に情報を発信している。

大学 HP より

甲子園キッズフェスタにダンス部とエアロビックダンスが参加

「甲子園キッズフェスタ」は「スポーツを核とした甲子園エリア活性化推進協議会」の事業の一環として、甲子園エリア（甲子園駅前広場・甲子園球場外周・ららぽーと甲子園）で、子ども向けのスポーツ体験や学び体験の催しが開催される。

11 月 3 日の甲子園駅前広場のステージ上では、本学の「ダンス部」と「エアロビックダンス部」がパフォーマンスを披露した。

【　生活環境学科　】

豊中市グリーンスポーツセンター利活用プラン提案

豊中市と本学は平成 20 年に包括連携協定を締結している。伊丹ゼミでは、令和 2 年度から豊中市「グリーンスポーツセンター」の施設デザイン等について提案を行い、「これまでスポーツに縁がなかった人に対しても、知らず知らずのうちに体を動かしたくなる環境ときっかけを提供する目的で、施設の一部に「こもれびのみち」や「みつぼの花」と命名するなど、様々なアイデアを提案した。豊中市のＨＰでも紹介されている。

まちづくりコースの学生が武庫川団地のまちづくりを提案

本コースでは地域の課題や魅力を調査･分析し、課題解決や豊かな暮らしにつながる企画･提案を行う。

今年度は、大学近隣に立地する武庫川団地を対象として、UR 都市機構および阪神電鉄のご協力のもとに授業を開講した。最終回では、UR 都市機構および阪神電鉄に向けて、受講生 32 人が各自の企画・提案をプレゼンテーションし、UR 都市機構賞、阪神電鉄賞を受賞した。

大学 HP より

【　情報メディア学科　】

「鳥羽国際ホテル」の運営会社に旅行プランを提案

12 月上旬、20 代女性の集客向上を目的とする旅行プランとウェブデザイン提案を鳥羽国際ホテルを運営する伊勢志摩リゾートマネジメント株式会社のマーケティングチームにむけて発表した。

提案名は『よくばりさんとまったりさんの女子旅プラン』とし、「鳥羽国際ホテル」「NEMU RESORT」の 20 代女性の集客向上をテーマに、ウェブサイトの現状把握、旅行に関する調査データやウェブデザインと SNS を分析。伊勢志摩での旅行プランや、ウェブサイトに組み込む仕掛けやランディングページのデザイン案を発表した（指導：肥後有紀子准教授)。

大学 HP より

【　食物栄養学科　】

「兵庫県小児糖尿病サマーキャンプ 学生ボランティアグループ」が日本糖尿病学会から表彰

食物栄養学科が 30 年以上にわたり活動している「兵庫県小児糖尿病サマーキャンプ　学生ボランティアグループ」が、日本糖尿病協会から「小児糖尿病功労賞」を授与された。

この賞は「サマーキャンプの運営、小児糖尿病の医療等に原則として 10 年以上貢献のあった者」に贈られる。「兵庫県小児糖尿病サマーキャンプ　学生ボランティアグループ」は神戸大学医学部医学科・保健学科と食物栄養学科から毎年約 40 人ずつが参加･活動し、これまでに 2400 人以上が関わってきた。

例年は夏休みに兵庫県立南但馬自然学校で、1 型糖尿病の子どもたち 3～40 人と行う 4 泊 5 日のキャンプに同行し、低学年と高学年に分かれた勉強会などのイベントを行っている。今年はコロナ禍の影響で現地でのキャンプは無くなったが、10 月にバーチャルサマーキャンプを実施した。

大学 HP より

冷凍弁当のレシピを考案する「学内レシピコンテスト」のポスター発表と審査発表会実施

管理栄養士・栄養士を目指す 3 年生 26 人が、冷凍弁当のレシピを考案する「学内レシピコンテスト」のポスター発表と審査発表会を行った。

このコンテストは、冷凍弁当製造会社㈱ティーケーシン(西宮市鳴尾浜)が発売する冷凍弁当のレシピを開発し、「おいしい、バランスの良い手作りごはんで、健康寿命を延ばそう！」をテーマに、学生が食べる喜びを想起するレシピを考案するもの。レシピの条件には、普通食と治療食の 2 種類を考案すること、また、栄養量やコスト等にも制限があり、調理の簡便性が求められる。「学生賞」は 11 月の調理実習会後の試食を通して選出した。

大学 HP より

【　食創造科学科　】

高知県の「あき豆」と「土佐文旦を使ったレシピを考案し神戸市中央卸売市場で発表

高知県産の「あき豆」と「土佐文旦」を使ったレシピを考案。神戸市中央卸売市場の料理教室「魚果菜（ととかな）塾」で２月８日、1 年生 13 人がレシピのプレゼンテーションを行った。

食物栄養科学部食創造科学科は 2021 年 3 月に中央卸売市場本場と事業連携協定を締結しており、「食品産業論実習」の実習先としても協力を得ている。

高知県の特産品、あき豆は平さやで筋なしのいんげん豆。土佐文旦はさわやかな香りとジューシーな果汁が特徴。集まったレシピは全８８品。試作を経て「文旦とあき豆のサラダ文旦ドレッシング」「あき豆の春巻き」「文旦パウンドケーキ」「文旦レアチーズケーキ」の 4 品を選び発表した。

大学 HP より

【　音楽学部　】

「ＭＵＫＯ ＭＵＳＩＣＡ」企画・開催

11 月 28 日、兵庫県養父市「やぶ市民交流広場オープンハウス」で、応用音楽学科「音楽活用実習」（担当：横守稔久先生）が音楽イベント「MUKO　MUSICA」を開催し、多くの人が来場した。

楽器体験では音楽療法で使う珍しい楽器も並び、子どもたちが興味深そうに体験した。「ミュージック・イン・セラピー」では、音楽療法専修生が音楽療法について説明し、学生の合図に合わせて来場者が体を動かし、「ファビュラス・コンサート」では、本学卒業生の声楽家や、音楽専攻科、演奏学科の学生も出演し、親しみのある楽曲を演奏。特別ゲスト「スーパーキッズ・オーケストラ」との協演もあり、コロナ禍の中、久しぶりの音楽イベントに、会場は大いに盛り上がった。

【　薬学部　】

健康講座 2021」（薬学部×西宮市薬剤師会 連携事業）をベイコム 11 で放送

薬学部×西宮市薬剤師会 連携事業として、「健康講座　2021『コロナフレイルに負けない！』ロコモ体操・フレイルチェック・CogEvo 脳トレ／お薬相談・健康相談」の番組を放送した。

互いの連携協定に基づき 2019 年から毎年「健康フェア」や「健康講演会」「お薬相談会」を開催しているが、コロナ禍により昨年 3 月以降は実施が困難となる中、地域住民からの要望に応え感染状況をみながら「お薬相談会」を開催。感染対策やワクチン接種に関する疑問や不安に対応している。

【　経営学部　】「実践学習報告シリーズ」

実践学習は学生が企業や地域の人たちと協働する経営学部ならではの授業。

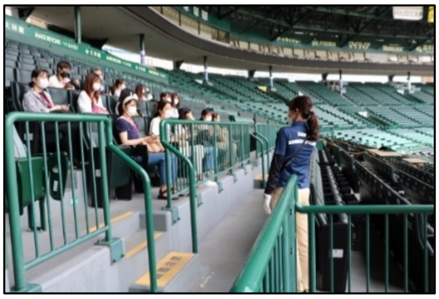
４年間で少なくとも４つのプロジェクトに参加する。学生はインターンシップやフィールドワーク、サービスラーニングを通して実社会と出会い、課題解決力を培っている。

「甲子園歴史観」リニュアルに向けた企画提案

2022 年 3 月にリニューアルされた「甲子園歴史館」について、2021 年度後期にリサーチと意見交換を実施、9 月 17 日に最終発表会を行った。

第 2 回の見学の後には現地スタッフとの意見交換会も実施し、甲子園歴史館の公式 twitter で「#武庫女生オススメスポット」を発信するなどの活動も行い、若者への広報も検討した。

グループの発表ごとに、甲子園歴史館のスタッフから具体的な質問や確認があった。


大学 HP より

中高生向け「SDGs を広げよう！」パネルイベント開催

企業がより良い社会に貢献する社会的責任（CSR）の意義を広く普及させるための検定などを行う株式会社オルタナから、第 1 回「CSR 検定の出題傾向分析」で CSR 基本リテラシーを学び、第 2 回「海洋プラスティック問題」では SDGs の具体的な学びをを深めた。

講義受講後、CSR４級を目指す中高生に SDG s を分かりやすく伝える方法を議論し、パネル資料を作成、SDGs 対応企業のひとつである西宮阪急百貨店 3 階のイベントスペースにパネルを展示、説明も行った。

ミニコミ誌「なるお通信 Vol.3」取材・記事作成に参加

「プロと一緒にミニコミ誌『なるお通信』を作ろう！」というプロジェクトに参加。「ランチどこ行く？」の記事を取材・作成し、9 月 1 日発行の vol.3 に掲載された。また、「武庫女のあるまち・鳴尾」の特性を生かしつつ、地域活性化を図るための事例研究を行った。

鳴尾エリア活性化プランは、「エリア内の公園の多さ」「高槻市との住みやすさの比較」「 エリア内にある複数の神社をつなぐ歴史」「学生と一体となった活性化」といった独自の視点で発表。プロジェクト協力会社からは、着眼点、SDG s の視点、知られざる事実の解明、プレゼン技術などが評価された一方で、エリアの考え方、関連する別の切り口、具体的な取り組み方法などに関する課題も指摘された。

それらを反映させたプランに仕上げた最終発表では、たくさんの指摘事項やコメントを記した資料が示されたが、「継続的な活動につなげていくための手段や取り組みについて考え、実現してもらえると嬉しい」との多くの期待が寄せられた。

大学 HP より

重要文化財「奥田邸」の活用方法を検討

奥田邸は大阪市平野区にある現存する数少ない江戸時代の大庄屋のお屋敷。奥田邸保存会の「もっと幅広い人たちに奥田邸をより身近に感じてもらい、新たな価値を生み出したい」という声を受け、活用方法を考えるプロジェクトに取り組んだ。

学生たちは奥田邸で 1 日過ごし、江戸時代の生活を体験。２チームに分かれてアイデアを考えた。

A チームは古民家を海外の文化と融合させている実例をヒントに、世界のイベントを子ども向けに行おうと考え、B チームは「昔と今が人を紡ぐ」をテーマに、20～50 歳代の女性をターゲットにした「大人の校外学習」を考え提案した。

大学 HP より

㈱ユタックスとナイトブラヲ共同開発。応援販売サイトで先行販売開始

兵庫県西脇市の衣料品メーカー（株）ユタックスとの産学連携プロジェクトにより、学生たちが企画から製品開発に取り組んだナイトブラが完成。12 月 21 日に応援販売サイト「MAKUAKE」でプロジェクトを公開し、先行販売をスタートした。

レディースインナーの製造で知られるユタックス独自の“針と糸を使わない接着技術”を使い、新製品を生み出そうとニーズが高まっているナイトブラに商材を絞り検討を重ねた。

ストレスフリーな着け心地を追究。また、寝ている間も気持ちが“上がる”見た目にこだわり、レース生地や波型のカットを採用。モデル着用による商品の撮影への立ち合い、Web サイトの作成にも学生が携わり、「MAKUAKE」でプロジェクトを公開し、先行販売をスタートした。

大学 HP より

「音羽デリ」と連携した商品開発

テイクアウト専門店「音羽ＤＥＬＩ」の販売促進につながる「ここでしか買えない商品」の開発に取り組み、10 種類の商品の試食会が、1 月 17 日午後、行われた。「十人十色」をテーマに、10 人の学生のアイデアを取り入れた商品が 3 月 10 日から 1 か月間「音羽DELI」苦楽園口店で販売された。

大学 HP より

「タリーズコーヒー」の課題解決への取組

大学生を含む Z 世代（2000 年代生まれを中心とする世代）の女性を呼び込む方法をテーマに検討。

最終発表では、「インスタ映え」や「カスタマイズ」に Z 世代らしい提案が集中。

また、競合店に比べ商品にチョコやキャラメルソースを追加する等のカスタマイズ案が少ないことを指摘し、QR コードでお勧めのカスタマイズメニューを表示することを提案したチームもあった。

【　栄養科学研究所　】

医療系５学科がタッグを組み「認知症予防教室」スタート

研究所の認知症予防研究部門として、学内の医療系５学科(健康・スポーツ科学科、食物栄養科学科、心理・社会福祉学科、応用音楽学科、看護学科）がタッグを組み、認知症リスク軽減に多角的に取り組むプロジェクト「認知症予防教室」がスタート。

初期の認知機能障害は、運動や栄養、認知トレーニングなど多方面からの介入によって改善することが、スウェーデンのFINGER研究により提唱されている。

プロジェクトでは食物栄養学科による栄養学と食事指導、健康・スポーツ科学科による運動指導をベースに、音楽療法（応用音楽学科）の見地から楽器演奏や歌唱を取り入れるほか、心理療法(看護学科)の「回想法」、心理教育プログラム（心理・社会福祉学科）でメンタル面を刺激。

測定会には５学科の教員のほか、食物栄養学科と健康・スポーツ科学科の学生が問診や運動補助で協力した。毎週、運動と他のメニューを組み合わせた多方面介入プログラムを実施し､1年後に再び認知機能評価により効果を確認する予定。

大学HPより

【　生活美学研究所　】

野球の聖地「甲子園」の付近に居住する人の意識を探るアンケート結果がまとまる

西宮市の甲子園一番町から九番町の全世帯に住環境アンケートを実施。甲子園の“番町街”に住む人たちの住環境に対する評価とアイデンティティの関連性を考察して報告書にまとめ、森田雅子所長が西宮市の石井登志郎市長に提出した。

甲子園一番町から九番町は甲子園浜付近から２号線に至る南北の「甲子園筋」に沿い、最南の九番町から北に向かって数字が順に若くなる。大正時代、阪神電鉄が郊外型住宅地として開発。エリアのシンボルとして建設された阪神甲子園球場と合わせて、全国的に名の通った住宅街となった。

アンケートは甲子園球場と甲子園会館への接触頻度や、「球場近隣住民であることは自慢できるか」「甲子園球場の景観への寄与」「甲子園会館の景観への寄与｣「引っ越しの予定｣など30問から構成し、二つのランドマークを居住者が暮らしの中でどのようにとらえているかを問いかけた。

森田所長は「開発当初は甲子園筋に沿って緑地帯が南北に延び、豪邸が立ち並ぶ“お屋敷街”で、南北に走る路面電車や、阪神パークなど郊外生活を充実させる娯楽施設が充実していました。今回のアンケートからは、住民たちが時代とともにかつての面影が薄れていることを残念に思う一方で、甲子園という全国区の地名を持つことのメリットと誇りを感じていることもわかりました。甲子園という聖地に暮らす住民の意識を解き明かしたい」と述べた。

大学HPより

【　附属図書館　】

附属図書館がAI顔認証入館管理システムを導入

COVID-19対策を含むリスクマネジメントの強化と、生涯学習支援のさらなる充実のため、NTTドコモのAI顔認証入退管理システム「SAFR」を導入。

附属図書館は、学生の教育や教員・大学院生の研究を支援するだけではなく生涯学習の場としても重要な施設であり、現在、西宮市内在住・在校の中学・高校生のほか、本学の卒業生、西宮市教育委員会の教職員、連携協定校など学外にも一般開放している。

不特定多数が頻繁に利用する施設であるだけに、感染予防にとどまらず、より広くリスクマネジメントを強化するため、利用者の詳細な把握が課題になっていた。顔認証システムの導入により、地震や火災発生時などの緊急事態においても館内の滞在状況が即座に確認が可能。

SDGsの目標の一つである「質の高い教育をみんなに」にもつながるこの取り組みを通し、地域社会へのさらなる貢献に取り組む。

地域・自治体等との連携

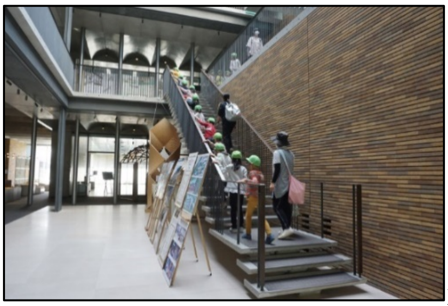
西宮市立鳴尾北保育所の災害時避難訓練を甲子園キャンパスで実施

鳴尾北保育所には高い建物がないため、特に津波や洪水などの際の避難場所が課題であった。

武庫川学院と西宮市は、平成 24 年（2012 年）9 月に鳴尾北保育所の災害時の避難について、津波や洪水だけでなく地震や火災などで保育園児の生命に危険がある場合の一時的な避難場所として、隣接する上甲子園キャンパスの敷地や建物を利用する協定を締結。

避難訓練はこの協定に基づき、平成 24 年（2012 年）以降、毎年、実施してきた（昨年は新型コロナウイルスの感染拡大のため中止）。9 回目となる今回は、「保育時間中に大地震が発生し、5m 以上の津波が来る恐れがある」との想定で、 午前 10 時 10 分、園児 83 名が所長以下 19 名の保育士等に誘導され、上甲子園キャンパスに避難。

広場に集合し、人数確認の点呼の後、避難に要した時間を計測し避難場所を確認した。



大学 HP より

硬式庭球部がデフ Jr テニス教室 in 兵庫の開催協力

第 39 回デフ Jr テニス教室 in 兵庫（主催：NPO 法人デフテニスジャパン）が 12 月 4 日、武庫川女子大学上田テニスコートで開催され、本学硬式庭球部部員が兵庫県を中心としたデフテニスの小学生キッズプレイヤーと交流会を行った。デフ(deaf)とは聴覚障がい者の事を指し、車いすテニス、ブラインドテニスや立位テニスと並ぶパラテニスの 1 つでルールは通常のテニスと同じ。

部員たちは、スタッフの方からパラスポーツやデフテニスの現状、デフのキッズプレイヤーたちへの対応についてレクチャーを受けた。

学生たちは、耳栓やイヤーマフラーをつけた音のない中でのデフテニスや、アイマスクを着けて音だけを頼りにボールをラケットに当てるブラインドテニスを疑似体験し貴重な経験を得たと話した。

大学 HP より

ブラウンライスボランティアが「国際ソロプチミスト奈良―まほろば」からクラブ賞を授与

学生ならではの視点で意義ある活動を継続的に行っているとして、「国際ソロプチミスト奈良ーまほろば」からクラブ賞を授与された。

国際ソロプチミストは世界各地にクラブを持つ世界的な女性の奉仕団体。国内にも多数の支部があり、その中の一つ「国際ソロプチミスト奈良―まほろば」がブラウンライスボランティアの活動に関心を寄せ、公益社団法人ソロプチミスト日本財団が取り組む奨励事業「令和 3 年度学生ボランティア賞」に応募しクラブ賞として表彰状と賞金 3 万円を授与された。ブラウンライスボランティアは賞金の使途についてメンバーで話し合い、国連 WFP の支援に使用するとした。

大学 HP より

西宮市・スポケーン市姉妹提携 60 周年を記念し、「フロム西宮」に出演

西宮市とアメリカのスポケーン市が姉妹都市提携をして 2021 年で 60 周年を迎えたのを記念し、本学の学生たちが出演する番組が西宮市の「フロムにしのみや」（ケーブルテレビベイコム 11 チャンネル）で放送された。

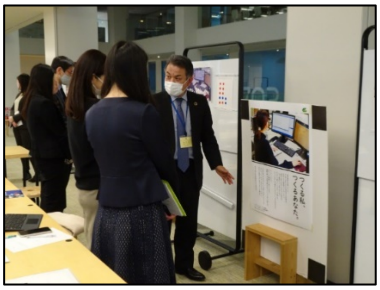
日本語日本文学科平田ゼミ(平田光彦准教授)の学生と、書道部、箏曲部の部員、有志学生らが出演。万葉集の歌を揮毫する書道パフォーマンスに、和楽器による演奏、日本庭園、ストリートダンスの要素を加え、両市の交流が今後も続いていく未来を表現した。

中小企業の人事担当者向けの勉強会スタート

中小企業の採用活動と効果的なインターンシップを開催するための人事担当者向けの勉強会「第１期 KOBE 採用イノベーションスクール」(主催：武庫川女子大学経営学部、神戸市　共催：兵庫工業会）が 10 月 15 日、武庫川女子大学でスタート。

本スクールは、神戸市が実施する「大学発アーバンイノベーション神戸」研究助成事業に採択された本学経営学部山下紗矢佳講師の研究「中小企業におけるダイバーシティを前提とした採用力向上に向けた研究」の一部として実施。

日本企業の強みと魅力を若者に伝えるための工夫や新たな採用方法、インターンシップのあり方を構築し実践するためのプロジェクトで、神戸市を中心とする中小企業 9 社から担当者が参加。最終回では受講生が制作した採用ポスターのポスターセッションが行われた。



大学 HP より

「第 4 回武庫女スマイルフェス」を WEB と展示で開催（@ららぽーと甲子園）

武庫女スマイルフェスは武庫川女子大学の取り組みを地域の人に知ってもらおうと、三井ショッピングパーク「ららぽーと甲子園」との合同イベントとして毎年行っている。学生主体の対面イベントが好評だったが、コロナ禍の影響で昨年に引き続き、今年も 16 団体が Web と展示での開催となった。

SDGs への関心の高まりを受け、フードロスを減らす取り組みや、不用品を使ったリメイク、建物の再活用など、持続可能な社会の実現をめざす展示が目立った。

大学 HP より

社会連携推進課の取組

【 第 1 回 ビジネスアイデアコンテスト実施 】

起業マインドを持ち、MUKOJO Vision がうたう「一生を描ききる女性力を。」を体現する学生を育てようと、教育研究社会連携推進室が主催し、女性活躍総合研究所が協賛。「私が立ち上げたい小さなビジネス」をテーマに在学生にアイデアを募集した。

個人やグループから 16 件の応募があり、審査の結果、最優秀賞と 2 件の優秀賞を選出した。

大学 HP より

【 第 6 回 地域連携協議会 】

地域連携協議会は、2016 年度より、地元自治体や自治会、地域の企業の方々に参加いただき、本学教員の地域活動の報告を行い、本学に対しての意見・要望を聞く場として開催している。12 月 20 日には 5 名の教員が、「地域連携に係わる活動」を報告した。

≪発表者一覧≫

◆教育学部 教育学科 教授 高木史人

兵庫県下における昭和期の口承文芸(昔話)･方言資料収集史の分析及び昔話･方言資料活用についての研究

◆食物栄養科学部 食物栄養学科 教授 福田也寸子

エンパワード･ソリューション型ラーニングによる管理栄養士養成課程における献立作成･問題解決能力育成事業

◆食物栄養科学部 食物栄養学科 准教授 大滝直人

地域貢献を通じた管理栄養士･栄養士としてのコンピテンシー獲得のための養成カリキュラムの提案

◆食物栄養科学部 食物栄養学科 講師 小林知未

児童の食生活改善のための食育支援とその評価に関する検討

※本事業は次年度も募集を予定している。

【 第 6 回研究成果の社会還元促進に関する発表会 】

本発表会は、本学の研究成果を広く発信し、実社会での活用につなげようと毎年開催しており、2 月 16 日の第 6 回は、会場とオンラインで企業や自治体の関係者ら約 30 人が参加した。

8 件の研究成果が発表され、参加者からは「各発表とも、独自の切り口で研究した成果を示され感銘を受けた。」との意見があった。

≪発表者一覧≫

◆文学部日本語日本文学科　講師　工藤彰

文学と地域を契機とした映像(フィクション)の制作
——作品の再構築と価値の再発見

◆文学部日本語日本文学科　准教授　設樂馨

子ども食堂における漢字･食育融合教材の開発と実践

小学生と大学生の交流機会の報告及び、食育漢字ゲームと食育調査の紹介

◆文学部英語文化学科　教授　辻和成

グローバル展開を進める企業の国際化支援のための調査研究

―職場の英語化診断と社員の実践的英語力の育成を目指して―

◆経営学部経営学科　助教　谷口浩二

産学連携によるサスティナビリティ人材の育成

―武庫川女子大学経営学部「産学教育連携論」を事例に―

◆経営学部経営学科　助教　谷口浩二

地方創生人材育成のための産官学の取り組み

―経営学部「実践学習」を事例に―

◆経営学部経営学科　助教　藤井善仁

農村マネジメントにおける地域の実態と課題

◆生活美学研究所　所長　森田　雅子　野球聖地の生活質感とこれからの展望　（２）

―住環境アンケートの概要（2020 年 1 月～12 月甲子園番町街全世帯配布・回収分）―

◆教育研究社会連携推進室　特任教授　大坪　明

丹波市でのハッピーバース応援ギフト事業の評価等に係る調査　–半年間実施での中間報告

―木製玩具等の贈呈を受けた人のアンケート回答の分析を通じて―

※本事業は次年度も開催を予定している。

※本発表会での発表概要をまとめた冊子がご入用の方は、下記までご連絡ください。

連絡先：本館 5 階　社会連携推進課　中村・大谷
内線：6210、6212 / E-mail: shakai@mukogawa-u.ac.jp
HP： collaboration.mukogawa-u.ac.jp